

いちご病害虫情報第2号

平成24年1月19日発行
宮城県病害虫防除所
(TEL:022-275-8982)

1 発生状況

巡回調査を1月16,17日に実施した結果、以下のような状況であった。

(1) 病害

- ・うどんこ病は発生地点率、発病葉率とも前月より低下し、発生地点率は平年並(図1)であったが、発病葉率は平年より高かった(図2)。
- ・その他の病害は特に目立った発生はみられなかった。

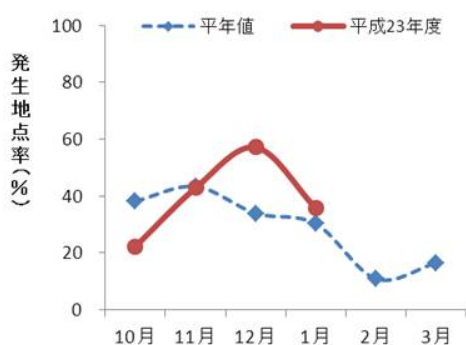


図1 うどんこ病の発生地点率

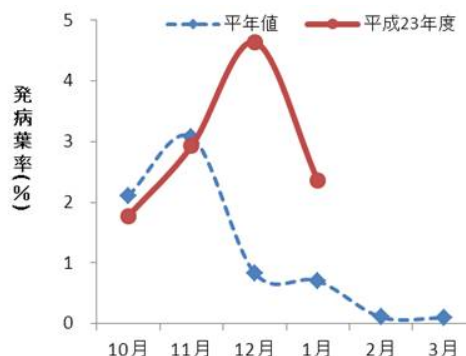


図2 うどんこ病の発病葉率

(2) 虫害

- ・ハダニ類の発生地点率は平年よりも高く(図3)、1複葉あたりの寄生頭数は平年よりもやや多かった(図4)。
- ・コナジラミ類の発生地点率はやや高く(図5)、1複葉あたりの寄生頭数は平年よりもやや少なかった(図6)。

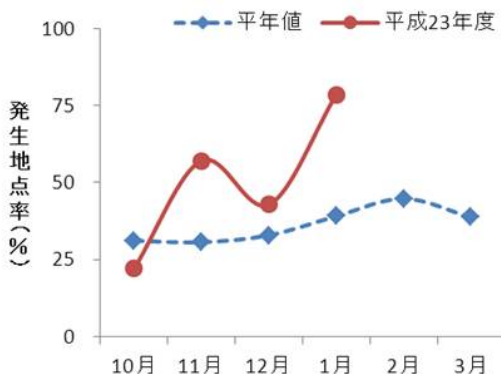


図3 ハダニ類の発生地点率

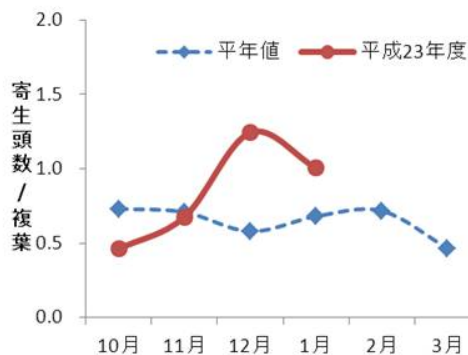


図4 ハダニ類の1複葉あたり寄生頭数

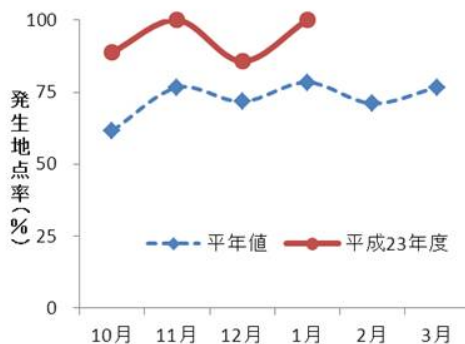


図5 コナジラミ類の発生地点率

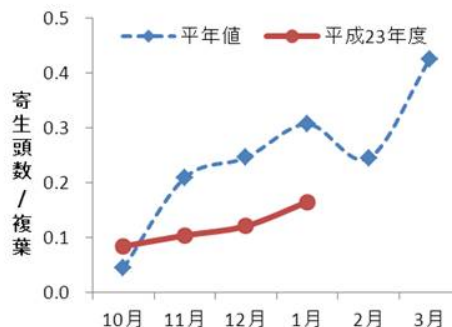


図6 コナジラミ類の1複葉あたり寄生頭数

2 防除対策

(1)病害

- (イ) 耐性菌の出現を防ぐため、同一系統薬剤の連用は避けてください。
 - (ロ) うどんこ病は、多発すると防除効果が劣るので、発生初期からの防除に努めるとともに、罹病葉、罹病果実は除去し、適切に処分してください。
 - (ハ) 灰色かび病は湿度が高いと発病しやすいため、こまめにハウスを開閉し、風通しを良くするなど換気を適切に行ってください。
- (二) 薬剤散布の前に下葉の除去を行い、薬液が葉裏まで十分にかかるよう散布してください。

罹病葉等の残さについて

植物残さがハウス近くに積みあげたままになっていると、そこで病原菌が増殖してハウス内に飛散する場合があります。残さ(特に罹病葉や罹病果実)は、「土中深くに埋める」、「焼却処分する」、「袋等で密閉して腐敗させる」等の方法で適切に処分してください。

(2)虫害

- (イ) ハダニ類、コナジラミ類は、薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統薬剤の連用は避けてください。
 - (ロ) 発生密度が高くなってからでは、防除が困難になるので、早期発見と初期防除に努めてください。
 - (ハ) 薬剤を散布するときは、葉裏まで十分に薬液がかかるように散布してください。
- (二) **薬剤の散布にあたっては、ミツバチに対する安全日数を考慮して使用してください。**
- (ホ) ハダニ類に対して天敵(ミヤコカブリダニ、チリカブリダニ)を放飼している場合は、天敵に影響の少ない農薬を選定してください。

薬剤の選定に当たっては、最新の農薬登録情報を確認してください。また、農薬を散布する際には周辺作物の収穫時期に注意し、農薬が飛散しないよう防止対策をとるとともに、散布農薬を必ず記帳してください。

農薬登録情報 http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.html

農薬の空容器の野焼き(野外での焼却)は禁止されています。農薬の空容器を処理する場合には、産業廃棄物処理業者に委託するなど、適正に処理してください。